

なぜ教育で生成AIが問題に？

●生成AIは、学習の目的を根本から覆す可能性

学習の目的は、

自らの考えを、適切な言葉によって、相手に分かるように伝えられる能力
(=主体的・対話的姿勢・表現力)

を身に付けること

→しかし、生成AIを使うことで、学習者の**実力以上のことができてしまうという問題**

文章の流れから展開を推測し、可能性の高い単語を順番に出力

その10年の取り組みの軸の一つになると思われる生成AIは、これまでの機械翻訳と比べるといく

つきの違いがあります。例えば「推測力」。機械翻訳と違い、生成AIの翻訳はさまざまな情報を基に出力するので、学習者の意図に沿った文を出力する確率が飛躍的に高まりました。それだけでなく、文章の要約や学習者の意見を書かせる課題にも十分対応できます。

ChatGPTは、人間の脳をモデルにしたニューラルネットワークと呼ばれる数値モデルを基に大量のテキストを学習したシステムです。文章の流れから今後の展開を推測して次に来る単語を学習しています。出力の際は、学習を基に次に来る可能性の高い単語を一つ一つ順番に出力しているだけです。ただし、解答例があるとそれに合わせた出力が行われず、だから、利用の際はテンプレートをういたり、変更点を明示したりするなど望ましい回答を得やすい質問をすることがコツです。

この便利なChatGPTが日本の英語教育で問題視されるのは、「根本」を覆す可能性があるためです。外国語の習得には、その言葉によって自らの考えを、適切な言語使用で、論理的に構成して、伝える能力が重要です。日本の多くの子供は、小学校・中学校・高等学校を通して、英語に関する

日本の小学校・中学校・高等学校では英語を学ぶ「目的」を持ちにくい

主体的・対話的な姿勢や表現力を身に付けることを目指します。

ところが、ChatGPTは自らの考えをまとめる、適切な言語を選ぶ、文章を論理的に構成する、のいずれの面も大半の学習者の能力を上回ります。現在のChatGPTの英文生成レベルは、英語圏の標準的な大学生並み、日本人大学生なら最上位クラス相当です。通常の和文英訳だけでなく、一般的な大学の英文レポート課題ならば、テーマなどのアイデア出し、適切な言語使用、論理的な構成、すべてChatGPTに「お任せ」できる状態と言えるでしょう。結果として、本人の実力以上の英文レポートが提出されることもあり得るため、先生がその学生の英語力に関する公平・公正な評価は困難、というよりも実質不可能となってしまう。

文部科学省が2023年7月に「大学・高専における生成AIの学面の取扱いについて」と題したガイドラインを公表したのも、そのような危機感が背景にあると考えられます。同ガイドラインでは、大学・高専の学修は学生が主体的に学ぶことが本質であり、生成AIの出力をそのまま用いてレポートなどの成果物を作成することは、

この10年の取り組みの軸の一つになると思われる生成AIは、これまでの機械翻訳と比べるといく

ここからの10年の取り組みが日本の英語教育を決定付ける

日本の英語教育では「聞く・話す・書く・読む」の4技能の習得が中心です。しかし2022年度からの高等学校の学習指導要領では、伝統的な4技能に加えて、自分の考えを相手に伝えたり議論したりする「コミュニケーション能力」が重視されるようになりました。

その一方で、ChatGPTに代表される生成AI（人工知能）の教育現場での応用も始まっています。生成AIが児童や生徒、学生の英語教育にどのようなインパクトをもたらすかは、ネイティブ英語圏を除く、アジアなどの国々に共

京都大学
国際高等教育院
附属国際学術言語教育センター
金丸敏幸 准教授



「生成AIは学習の補助ツールの前提で満足度の高い授業づくりに役立てる」

日本の英語教育は、ChatGPTに代表される生成AIの登場でどう変わるか。ChatGPTの特性を踏まえた語学学習支援システムとの組み合わせなど、多くの教育現場で最適解を目指した模索が続く。京都大学の金丸敏幸先生は、「学習者や先生などそれぞれの立場に合わせた適切な使い方を皆で考えることで、社会にとって有意な付き合い方にたどり着く」と提案する。

「生成AIは学習の補助ツール」の前提で満足度の高い授業づくりに役立てる



大幅に減り効率的に添削できるよ
うになりました。グラマーチェッ
カーの役目を返上して浮いた時
間は、英語圏の文化や慣習を踏ま
えた文章の組み立て、ディスカッ
ションの流れといった、本来教え
たかった指導に使えるようになっ
たということです。

「生成AIは学習の補助ツール」
と捉えると、PC教室用のCALL
システムやBYOD向けのMALL
システムなどの語学学習支援シ
ステムの役割を見直すことにつな
がります。ChatGPTのような
生成AIがあるとはいえ、学習者
自身に学習のための教材を作らせ
たり、自分自身で評価をしたりす
るわけにはいきません。教育現場
では、先生が教材をきちんと届け
たり、責任をもって英語力をチェッ
クしたりするCALLシステムや
MALLシステムが必要です。

CALLやMALLの語学学習支援システムと 生成AIを組み合わせ、英語力を公平・公正に評価

「生成AIの有効活用のために
英語を学ぶ」という新たな目標
ChatGPTと英語教育を巡
る議論では、「もはや英語を学ぶ必
要はない」など極端な意見もあり
ます。一見正しいようにも見えま
すが、これには注意が必要です。
今のChatGPTには、文章全
体を調整することはできても、一部
だけ修正することは難しい、ある
いは、同じ質問でも解答が一定でな
いなどの弱点があります。さらに、
生成AIが出力した英文や解答が
必ずしも正しいとは限りません。
これらを見極めるには、一定水準
の英語力を身に付けることが不可
欠です。その上でChatGPT
に全部任せるとはならず、学習者
や先生といった立場に合わせた適
切な使い方を考えるほうが、社会
にとって有意な付き合い方だと

金丸敏幸 准教授 プロフィール

2006年、京都大学大学院を単位認定退学後、独立
行政法人「情報通信研究機構」の研究員などを経
て、2007年京都大学大学院助教、2014年より現
職。専門の外国語教育、自然言語処理、認知言語
学の知見を活かし、カリキュラム、教材、指導法の開
発や教育評価の研究に携わる。現在、一般社団法人
「大学英語教育学会」理事。生成AIと教育に関する
講演やメディア掲載多数。

り着くことができるのではないで
しょうか。
この発想に立てば、日本の英語
教育が長年直面してきた「生徒が
英語を学ぶ目的を持ちにくい」と
の課題に一つの解を提示できま
す。これからの社会では、生成AI
の存在感はますます高まり、生成
AIを使ったコミュニケーション
が当たり前になるでしょう。英語
を学ぶ目的が受験のためでなく、
「生成AIで英語を上手に使いこ
なすため」となれば、子供たちの夢
はもっと簡単に世界とつながりま
す。生成AIの助けで本当にやり
たいことが実現できるようになっ
た時、日本の英語教育は新たな
フェーズに突入すると考えます。

学生自身の学びを深めることにつ
ながらないため不適切であると指
摘しています。生成AIの利活用
が有効と想定される場面として
は「学生による主体的な学びの補
助・支援」を挙げ、ブレインストー
ミングや論点の洗い出し、情報収
集、文章校正、翻訳やプログラミ
ングの補助などと説明します。

「聞く・話す・書く・読む」を 自分のペースで磨くことが可能

日本の英語教育におけるChat
GPTの位置付けは、学習者と先
生それぞれの立場でのメリットを
整理するとより良い活用が見え
てくるのではないのでしょうか。前
者にとっての利点は「聞く・話す・
書く・読む」の4技能を自分のペ
ースで磨くことができる点です。

「聞く」は一人でもできます。し
かし、「話す」と「書く」は誰かに
チェックしてもらわなければ進み
ません。自分の話した内容をテキ
スト化してChatGPTに添削
してもらえば「話す」訓練につな
がります。「書く」も同様です。
学習者にとっては英語学習の専属
トレーナーとなります。また、ある
英語ニュースを読み込ませて「こ
ういう文脈で要約して」と指示す
れば、要約の手本を得ることがで
きます。工夫すれば、自己添削や
解答例の作成も思いのままです。
もちろん、先ほど紹介した文部
科学省のガイドラインが危惧する
ような「学生自身の学びにつな
がない」リスクへの備えは必要で
す。例えば、ChatGPTは学習
者の英語力を越えた出力をするこ
とがあります。そこで、「ブレン
ディングリッシュで書いてください」
と指示をして、日常的なレベルに
制限した英文にする工夫も必要で
す。何でもできるからこそ、適切な
指示が求められるツールです。
このように学習者にとって「自
分のレベルに合わせてくれる気
の利いた壁打ち相手」のChat
GPTは、先生にとっては「事務処
理スキルが高い優秀なアシスタ
ント」になり得ると言えます。「学
生からのコメントを内容ごとにま
めて集計してください」と指示す
れば、授業のコメントをキーワー
ドごとにグループ化してくれま
す。ChatGPTの有料プラン
なら、CSVやエクセル文書など
の形式でデータを与えると、それ
を分析するためのコードを生成し
た上で、結果をグラフ化して提示
してくれます。「なぜその分析手法
を使ったのか？」と入力すれば理

学習者にとっては「気の利いた壁打ち相手」、 先生には「事務処理の優秀なアシスタント」

由も分かるので、授業アンケート
の回答結果をカリキュラムの改善
に役立てることも容易でしょう。
また、教材作成の役にも立ちま
す。英語ニュースに関連した問題を
20問作成してください。そのうち
の10問はイエス/ノーで回答でき
る問題にしてください。残りの10
問は自由記述の問題にしてください。
問題の後に、それらの模範解
答を載せてください」のように入
力すれば、こちらのリクエストに
沿った問題や解答例を瞬く間に
出力してくれます。
現時点の英語教育でChat

GPTを活用しているのは、流行
に敏感で自ら情報収集を行い積極
的に試してみるユーザーアダプ
ター。の先生や学生だと思われま
す。知り合いの先生は学生が英語
レポートを提出する前にChat
GPTを使って文法チェックをす
るよう指導しています。これま
では英文レポートを課すと、文法
の間違いが多過ぎて、添削するこ
ろ自分が「グラマーチェッカー」
になった気分でした。文法ミス
を修正していたそうです。ところ
が、レポート提出前にそれぞれの
学生がChatGPTでチェック
するようになった結果、文法ミスが

情報教育の見直し

- AIの活用で学習効率に大きな差が生じる可能性
 - ・ 理解の速度に大きな違い → 「情報格差」の解消
 - ・ AI活用を前提とした教育 → 「AIリテラシー」が必要

英語教育はどうなる？

- 知識教授型授業はこれからも必要&有用
 - ・ 文法など基礎的な知識をAIで学ぶのは非効率。
 - ・ さらに、AIの出力を正しく見極められる英語力も
 - ・ 検索やプロンプトなどAI技能を整理する必要
- 課題実践型授業は注意が必要
 - ・ 学習者が自分で読んだり、書いたりしているか。
 - ・ AIの活用は良いが、AIにすべて依存するのは問題
 - ・ 人間とAIが書いたものを区別することは不可能

AI時代の英語教育に求められるもの

- 応用できる基礎と型が重要
 - ・ 細かな知識や事例などはいつでも引き出せる
 - ・ 思考や表現の枠組を見抜く能力が重要
- 教師の役割は導くこと
 - ・ 知識を教えるだけでなく、英語を活用する
 - ・ 学生がAIを使って主体的に学ぶ方法を実践する
- AIと協働できる取り組みを
 - ・ 一人ひとりの能力に応じたサポートをAIから得る
 - ・ 一人ではできないことをAIの助けで乗り越える
 - ・ AIとの対話で真に自律的な学習者を育てる